
Ein virtueller Kampf .

LICHT

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Ein virtueller Kampf.

【著者名】

N4745B

【作者名】

LICHT

【あらすじ】

一介の日本人中学生、『ビル』こと“僕”的お話。

第1話 始まり

ブウン

フラン

漆黒の闇の中、1つの青白い光が浮き上がった。大きさにして大体30センチ四方……パソコンの画面だ。

『電腦時空ゲート1 開放』

青白いディスプレイに、文字が走つていく。キーボードもカタカタと音を立てているが、肝心な人間が、パソコンの前にはいなかつた。

31番ポート開放プロバイダ座標逆探知中...
[閉じる]

『座標探し完了、電腦時空ゲート2～38 同時開放』

刹那、そこらじゅうの空間一体に、稻妻が発生した。

先程のパソコンが黄色い火花を散らし、物言わぬ無機質の塊となる。

ドサリ、と何かが落ちる音。

しかしどこにも光は無く、それが何かさえ、確認できない。

静寂。

一拍。

どこか近くで、学校のチャイムとおぼしき合成音が響いた。

+

「さて、部活に行くとしますか……」

明るい光に満たされている教室。ようやく授業やホームルームから開放されて気が抜けたクラスメイト達が、雑談やら追いかけっこやら格闘技やらを満喫していた。

僕は一人さつさとかばんを片付け、着々と部活へ行く準備を整えていた。

別に友達がいないとか、雑談やら追いかけっこやら格闘技やら掃除道具野球大会やら篠チャンバラやら何やら何やらがつまらない低俗な遊びだと思っているわけじゃない。

そもそもそんなちょっととした遊びが出来ないくらいじゃあ一介の中学生失格だろ、と僕は思う。

ただただ気分がさつさと行こうと急かしているだけで。

「じゃ、行つてくるわ！」

「じゃーな、ビル！」

「ビルさんアデュー！」

ビル……僕のニックネームである。パソコンが得意だと言つ僕の特徴（と、言つと何だか実験動物かなにかの観察対象にされたる気がしないでもないのだが）から、大手ソフトメーカーであるマイクソフトの会長の名前の一端をとつたらしい。
仕方が無いと言えば仕方が無いことだ。
なんせ僕は、さわやかーな見かけによらずパソコン部などやっている身なのだから。

校舎の北棟4階、視聴覚室よりあと10メートル弱。
さあてわざとレポートを仕上げてネットゲームでもやつてようか。
あと5メートル。
ポケットから部長から預かっていた鍵を取り出した。
あと3メートル。

キー挿入まで5秒前、4・3・2・1

。

僕はふと動きを止めた。

焦げ臭い。

まさか

火事！？

慌てて鍵を差込み右にひねり、勢いよく引き戸を開け、

……僕は固まつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4745b/>

Ein virtueller Kampf .

2010年12月14日20時08分発行